



<連載⑮>

世界最大のクルーズ客船

サブリン・オブ・ザ・シーズ



大阪府立大学船舶工学科講師

池田良穂

今年1月、それまで世界最大の大きさを誇っていたクルーズ客船ノルウェー（70,202総トン、元大西洋横断定期客船フランス、1961年建造）を凌ぐ、総トン数 74,000トンのクルーズ客船がカリブ海に登場した。その名も、サブリン・オブ・ザ・シーズ。日本語にすると「海の帝王」。

建造所は、客船フランスを建造したルアーブルのアトランティック造船所。最近、造船不況が叫ばれているが、ヨーロッパの造船所の中には、船価の高いクルーズ客船を続々と受注し、活況を呈している所も少なくない。この造船所も、長年ルアーブルに係船状態にあった客船フランスがドイツの造船所でクルーズ客船に改造されることが決まった折には、大きなストまでやっていたが、最近は次々とクルーズ客船を受注している。こうした、クルーズ客船新造ブームをまの当たりにして、ようやく日本の造船所も重い腰を上げたが、クルーズ客船新造ブームも最高潮に達した現在、まだ海外からの受注には成功していない。若干、遅れてしまった感があるのが残念だが、今後の活躍に期待したいというのが、日本の造船研究者としての願いである。

話が横道に逸れてしまったので、もう一度サブ

リン・オブ・ザ・シーズの話題に戻そう。昨年末に、フランスで完成した同船は、空船のままマイアミ港に回航され、1月15日にカーター元大統領夫人によって命名式が行なわれ、翌16日からカリブ海の1週間クルーズに就航した。コースは、筆者が昨年同じ会社の客船ソング・オブ・アメリカで回ったのと同じで、ハイチのラバディエ、プエルトリコのサンファン、バージン諸島のセント・トーマスに寄港するもので、カリブ海クルーズの中では人気のあるコースである。

◇
サブリン・オブ・ザ・シーズの主要目を以下に示そう。

総トン数：74,000トン

全長：880フィート 幅：106フィート

喫水：25フィート

主機：ディーゼル（ピールスティック）

7,425 bhp × 4基

計 29,700 馬力

補機：6基（ヴァルチラ） 13,000キロワット

推進器：可変ピッチプロペラ 2基

速力：16～21ノット

フィンスタビライザー：4基

バウスラスター：2基（各 1,500 馬力）

造水器：700トン/日

製氷器：18.5トン/日

旅客定員：2282人（一室2人使用）、
最大2690人

乗組員：750人（航海・機関：ノルウェー人
船員，サービス（ホテル）部門：国
際）

キャビン：1141室（うちアウトサイド722
室，インサイド419室）

全キャビンは喫水線より上部にあり，バス
ルーム，電話，テレビ，ラジオ，各室でコ
ントロール可能なエアコン付き。

クルーズ客船にとって，お客を楽しませる公
室は最も大事な施設といえる。同船の，公室の中
で最も斬新なのは，5層吹きぬけとしたセントラ
ムと呼ばれるロビーである。この他，レストラン，
ラウンジを数多く配置し，乗客をたいくつさせな
いエンターテイメントを実施している。同船の公
室を列記すると以下の通りである。

ロビー：Centrum

レストラン：Kismet Dining Room：Main
deck 650人定員

Gigi Dining Room：A deck
650人定員

ラウンジ：Follies（Main Lounge）：

Showtime deck 1050人定員

The Music Man：Mariner deck
675人定員

Finian's Rainbow：Promenade
deck 450人定員

Anything Goes（Night club）：
Commodore deck 330人定員

Viking Crown Lounge：Funnel
Stack deck 275人定員

Champagne Bar：Promenade
deck 50人定員

French Cafe（Coffee Bar）：
Showtime deck 50人定員

カジノ：Casino Royale：Showtime
deck 300名定員

カードルーム：Card/Conference Room：
Promenade deck 100名定員

シネマ：2室，各146名定員
デッキバー：Pool Bar

Windjammer Cafe，900人定員
Mast Bar

その他：Beauty Salon Gift Shops/
Boutiques，Photo Gallery，
Medical Center Health Center
（Saina Jacuzzi），Pools（2），
Sports Area，Library，
Conference Center

船主から送られてきた手紙の中に，サブリン
・オブ・ザ・シーズに関する興味深いいくつかの
情報があつたので以下に紹介する。

*使用鋼材：重さ；14,000トン（エッフェル
塔の2倍，自由の女神の70倍）

面積；2,152,800スクエア・フィート

*電線：807マイル（ワシントンからマイア
ミまでの距離）

*パイプ：43マイル

*電話：2,000台

*エレベーター：18基（総高さ1,387フィー
ト）

*デッキ広さ：150,700スクウェア・フィート
（テニスコート50面分）

*ギャレイの広さ：16,146スクウェア・フィ
ート

*冷凍庫広さ：56,500キュービック・フィート

- * サプリン・オブ・ザ・シーズの高さ：171
フィート
- * 建造期間：29ヶ月
- * 建造従事者：約2,900人
- * 作業量：3,000,000人・時間

最後に同船の一週間クルーズの料金を参考のために記しておこう。一週間クルーズの料金は、1部屋2人使用で1人1,280ドルからで、3人目からの乗客は495ドルという低料金となっており、一部屋を3人以上で使うと大変安い料金でクルーズを楽しめるシステムとなっている。他のクルーズ会社と異なり1部屋1人使用についても安い料金が設定されている。また、季節によって5~10%のディスカウントがある他、180日以上早く予約した場合には10~20%のディスカウントが適用

される。これらのクルーズ料金には全米140の空港からの航空運賃が入っている。もし、この航空切符が不要の場合にはクルーズ料金から250ドルが差し引かれる。

筆者は、船主から送られてきた綺麗なパンフレットを毎日見ては、ためいきをついているが、先日、船仲間の一人U氏からサプリン・オブ・ザ・シーズの絵はがきが送られてきた。消印は、遠いカリブ海に浮かぶセント・トーマス島である。はがきには、サプリン・オブ・ザ・シーズの上で、ハネムーンを楽しんでいますとあった。この日の夜は、この絵はがきをながめながら、U氏夫妻と新しいクルーズ客船サプリン・オブ・ザ・シーズの前途を祝って、一人ウイスキーのグラスを傾けた。



MIAMI, Florida -- Royal Caribbean Cruise Line's SOVEREIGN OF THE SEAS, the world's largest cruise ship, sails weekly from Miami on seven-day cruises to the Eastern Caribbean. The 2,282-passenger vessel calls at Labadee (Royal Caribbean's private resort on Haiti's north coast); San Juan and St. Thomas. Virtually a destination in itself, the SOVEREIGN has two large swimming pools, twin dining rooms, a spacious casino, numerous cabarets and lounges, a large shopping mall and twin cinemas among other features. EDITOR'S NOTE: PICTURE AVAILABLE IN COLOR.

に、日本船のコストでございますけれども、東南アジア船員の乗り込む船に比べまして、6倍ないし7倍というようなコスト高になってまいりまして、国際競争力を完全に喪失しているというような状況でございます。これに対応するために、海運各社は、極力スリム化、効率化を図る、事業の多角化を図るということで、懸命な努力をしております。

また、船員につきましても、労使合意のもとで、緊急の雇用調整をやっております。ちなみに、外航船員が2万3000人ほどおりましたけれども、1年半足らずの間に1万人減少いたしております。これくらい厳しくやっている状況でございます。しかし、先ほどもお話がございましたように、この円高が定着し、あるいは進行が予想される下では、これだけでは済まないわけございまして、海運各社はさらにスリム化の努力をやるということでも頑張っております。わけても当面の最大の課題は、日本船員の混乗の問題でございます。これ以外に外航海運の生き残る道はないのでございまして、既に運輸省にお願いいたしまし

て、マルシップ方式によりまして、さらに職員の少数精鋭化を図っていくという前提でご検討をお願いいたしておりますし、抜本的な制度として、ヨーロッパで既に始められております「新船舶登録制度」につきましても、日本で実現をしていただきたいということをお願いいたしております。

もちろん、私どもは、労使が真剣に相携えてこの難局を乗り切り、日本海運の再構築を図っていくかなくては行けないという決意であります。

公団共有船主協会におかれましても、先ほどの事業計画などを拝見いたしておりますと、近海船初め企業の近代化あるいは体質改善をしなければいけないという認識をお持ちでございますけれども、どうか佐藤会長のもとに一致団結されまして、所期の目的を達成されますように、心から祈念申し上げます。

最後に、当協会のますますのご発展と皆様方のご活躍をお祈り申し上げます、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

暑中お見舞申し上げます

月刊・公団船